

## 県央ブロックごみ処理施設整備候補地 住民説明会の開催結果

- 1 開催日時 平成 30 年 12 月 19 日（水） 18 時 30 分から 20 時 25 分
- 2 開催場所 堀越公民館
- 3 対象町内会 堀越自治公民館，田の沢町内会，沢目町内会
- 4 出席者
  - (1) 住 民 19 名
  - (2) 報道機関 1 社
  - (3) 協議会 9 名（菅原事務局長，櫻次長，森田主幹，菊池副主幹，畠山室長，古川主査，高橋主査，木村主任，日環センター速水氏）
- 5 会議概要
  - (1) 開会  
櫻次長により開会及び司会進行
  - (2) あいさつ  
菅原事務局長からあいさつ
  - (3) 説明  
畠山室長から「県央ブロックごみ処理施設の整備について」を説明
  - (4) 質疑（質問者 4 名，質問・意見数 34 件）

発言者・回答者	発言内容
① A	<p>1 一番西側で農業をしており，非常に排気ガスが気になる。国の基準が濃度で示されているが，絶対量で語らなくていいのか。来ているアドバイザーの意見も含めて聞きたい。これほど大規模なものを造るにも関わらず，焼却炉が小さかった時に作った基準をそのまま適用していいのか。</p>
→日環センター 速水氏	<p>1 大気の話は，大気環境ということになるので，濃度が基本になり，地上に降りた時の濃度がどれ位になるかを問題にする。濃度については，環境基準が定められている。このレベル以下にして，生活し，健康を守る上で問題ない基準を環境基準としている。</p> <p>排出基準は，法で排出基準を定めた時に，環境基準が守られる濃度にすることを決めている。ただ，中には総量規制というものもある。窒素酸化物は地球環境面で，オゾン層等にも影響が及ぶので国が指定した地域全体の総量で規制をしている。地域によっ</p>

	<p>て、例えば石油コンビナートなどが集中している地域では、排出基準を守っていても環境基準が達成されるか危ない場合、上乘せ基準や条例でさらに厳しい基準を課すことになる。</p> <p>先ほど小さな施設という話があったが、日本は小さな施設が沢山あり、平成 28 年度の統計では 1, 120 施設程度ある。ヨーロッパ、特にドイツでは、国にわずか数十施設と、大きな施設にしている。しっかりとした環境対策をして、濃度を下げることが出来るということがある。したがって、基本的には施設の管理は排出基準でやっており、環境影響評価などで生活環境への影響を確認するというのがベースとなって、特殊なものとして総量排出基準もある。</p>
A	<p>2 総量排出基準があるということだが、なぜ説明の中でそれを語らなかったのか。</p>
→日環センター 速水氏	<p>2 全体として総量基準となるが、個々の施設をどのように管理していくかという、基準としては濃度で管理することなので濃度で示したということ。</p>
A	<p>3 総量の話はいつ出てくるか。排出の体積が決まった時に濃度をかけて計算するものなのか。</p>
→日環センター 速水氏	<p>3 窒素酸化物が総量規制と言ったが、どこから出てくるかという、自動車から 50%、25%が工場など固定発生源、25%程度が住宅で使うエネルギーからとなり、トータルで排出源を捉える。個々としては、例えば固定排出源でみれば、総量が上回らないようにこの地域の施設については濃度としてこれ以下にということをする。全体の排出源を把握して、個々の施設についてはその濃度、ボリュームが分かっているので、そのボリュームに対してこの濃度以下にと規制を掛ける、濃度で管理するようになる。</p>
A	<p>4 総量が心配ということを行っている。農業をしており、大きい施設が建ち、濃度は管理しているが、量が膨大なので結局蓄積したという話になると困るので、それに対する説明を求めている。手代森の窒素酸化物の総量は、施設が近くに建った場合どれ位かの説明も欲しい。濃度と量は違うことはネットで調べればすぐ出てくるが、それに対する答えを求めている。基準の管理は濃度でやるということ、総量も見ることが分かったが、今の説明の中には具体的にこの地域のものは入っておらず心配だ。</p>

→日環センター 速水氏	4 風や雨により，浄化されたり移動されたりがあり，狭い地域で考えず全体として考える。ただ，いくつかモニタリングのポイントを定めて，大気環境が局部的にどうなっているかは把握していく。だから大きな施設が出来たから，ある決まった地域に蓄積するという考えではない。全体の大気環境として考える。
A	5 「全体の」とは，どの位の広さを指すのか。手代森か，盛岡か，岩手なのか，どういう所を思い浮かべて今話を聞けばいいのか。
→日環センター 速水氏	5 窒素酸化物などについては地球レベルで考える。
A	6 さっき「コンビナートは～」という話が出た。何平方メートル位なのか，一市町村の範囲なのか，「全体の」というのはどの位の規模で考えた方がいいのか。
→日環センター 速水氏	6 例えば，地域地域で特性があって，千葉県や神奈川県だと，石油コンビナートだとかいろいろ工業施設が集積している。工場の数も多い。そうすると，例えば県の単位とか地域の単位，特に集積している所は全体として他に影響が及ばないようにもっと厳しい排出基準を設けている。
A	7 一個だけ建っている所はそこまで気にせず，一個の濃度だけ見ていけば，全体の規制をするほど乱立していないとみなせるということをお願いしたいのか。
→日環センター 速水氏	7 はい。それともう一つ，場所が決まると環境影響評価をする。風の強さ，よく出現する風の向き，四季を通じて現在の状況を調べる。その上で，施設が仮に出来，この排出基準で操業したら地域の環境がどうなるか詳細に調べる。環境基準を上回らないか確認し，皆さんにお知らせするシステムがある。実施範囲とすると，一つの施設の影響範囲を大体1から2キロ位，施設の内容により，どの範囲まで調べるか検討し，範囲を設定して影響の評価をする。
A	8 今回は2キロ位ではないかということか。
→日環センター 速水氏	8 方法書で，この範囲で調べようという案を作り，皆さんにお知らせして意見を頂きながら，実際の影響評価を進めていく仕組みになっている。一般的には2キロ程度というのが多い。
A	9 その評価はこの後施設の概要が決まってきたら評価され，それも説明会では説明されると思っていいのか。

→日環センター 速水氏	<p>9 はい。仕組みとしては「告示縦覧」と言うが、説明会を開いて、資料も全部出して内容を確認してもらい、意見・要望をもらうという、法律で決められた制度である。</p>
A	<p>10 絶対量については、この後説明があるということでもいいか。濃度の基準で今のところは良くて、総量の話が心配だという説明についてはこの後あると思っていいか。</p>
→日環センター 速水氏	<p>10 環境がこうなるという説明や調査については、以後の環境影響評価というプロセスで詳細に説明するようになる。</p>
A	<p>11 イエスカノーで答えればどちらか。</p>
→日環センター 速水氏	<p>11 イエスだ。環境影響評価のプロセスでそういうことをやる。</p>
A	<p>12 今回、自分もごみを出す身として、どこかに建てなければならないことを真剣に考えた。手代森にごみの焼却炉が建つことに関してはしょうがないだろう、では盛岡はと言われたら、盛岡うちの街だし、ただ他市町はとなった時に、なんとなく納得出来ない。理由は、各人のごみを出す責任感が、よそにいくと薄らいでいくのではと思う。</p> <p>13 集約して、こんな大きなものを建てる必要があるのか。最新鋭のものを建てる、多額の税金を投入するなら、分散した方がいいのではないか。電気は送電線が繋がっていれば大差ないと思うが、廃熱については近くに建てた方がより利用できて、ゆびあすみたいなのを造るのではなく、熱供給を各住宅に直接するという効率良いやり方もあるはずだ。エネルギーの観点から集約の必要があるのか。</p> <p>14 輸送の問題。ガソリン代と、そして人の確保が難しくなる中で、ごみを移動するために大切な人の資源を使うのか。将来的に、これだけ人が減っている中で、輸送を選択するのか。</p> <p>15 設備は将来の人口減を見込んでこの規模で建てるのか。</p> <p>以上4つの観点から、それでも集約が必要と納得できる回答を。</p>
→畠山室長	<p>12 責任感については、焼却は広域で処理するが、8市町でも減量などに取り組んでいかななくてはならない。広域8市町で協議会を作り、取り組んできた経緯があり、将来的には組合を設立し、各市町と一体となっておみ減量に取り組む考えである。施設の整備</p>

	<p>に当たっては、ごみ処理のあり方について、どのような形でやるか、各市町の処理計画に基づき、地域計画を立てていく。その中で各市町と連携して減量、3R、発生抑制に取り組んでいきたい。</p> <p>14 輸送については1か所に集約し、各市町から車が来るため、交通量が増大するが、中継施設を設けて一旦ごみを集め、そこから大型車両で焼却施設に運搬することを考えている。そういう形なるべく台数を減らして、環境負荷を減らしていきたい。</p> <p>15 今回の見込みについては、将来の人口減を見込んで規模を算定している。うち50トンは、東日本大震災などの経験から、災害廃棄物の処理を見込んでおり、合計で500トンと算出している。</p>
→森田主幹	<p>13 それぞれの地域で、身近なところでエネルギー利用という視点も大事というお話だと思う。今企画しているのは、集約し、エネルギーを回収することによって、散在する中でエネルギー回収をするよりも、より効率的なエネルギー回収が図られるという方法を選択しようというコンセプトである。今回の計画ではその中でエネルギーの有効活用を、周辺地域を中心として考えていこうということになっている。</p> <p>ただし、質問のように、視点として、どのように地域の方々にエネルギーを広く利用してもらうかは非常に大事だと思っている。今回の施設整備計画の中でも、そういったことは並行して考えて、より多くの利用が出来るような方策を講じていきたい。</p>
→日環センター 速水氏	<p>12~15 今のお話は5つあったと思う。1つはごみを出すという責任感。そして、大きな施設をなぜ造るのか。3番目はエネルギー利用なら、もっと分散化していいのではないか。4番目は輸送の問題。5番目は将来人口を見据えた計画なのか。</p> <p>まず、大きい施設をなぜ造るのかという点。ヨーロッパでは、全体として大きく造っており、日本も集約化したほうがいいということで、広域化計画を策定するよう国が言い出した。これは、そもそもはダイオキシン対策である。ダイオキシンの排出基準は、1日あたり48トン未満の施設なら排ガス1立方メートルあたり5ナノグラム、96トン以上なら、0.1ナノナノグラムとなり、50分の1となる。施設規模を大きくすることで、変動が少なくなり安定し、いろいろ公害対策も出来る。集約して、24時間連続運転し</p>

て、高度なダイオキシン対策を講じることになれば、広域化は避けられないというところから出てきた。そこで集約化が進み、10年前位は日本全体で約 1,800 の焼却施設があったが、現段階で約 1,120 まで減っている状況である。

次に、エネルギー利用の話も関連している。ごみはエネルギーという考え方、サーマルリサイクルということで、処理する時もリサイクルや有効利用を考える形に進んできた。その際、ボイラーによる発電が、小さいと出来ない。今は約 80 トンでもボイラーをつけ、発電機をつけて発電するという施設も出てきたが、発電効率はそんなに良くない。少し前までは 100 トン以上になると、ボイラーをつけて、発電し施設の電力を賄い、余れば外に送る。そうしたことを積極的に行えば、ごみはバイオマスであり、化石燃料と違うので、化石燃料の使用を少しでも減らせる、地球温暖化対策になるとして奨励した。そうしたことから、規模が大きくなれば発電効率も高くなるため、ヨーロッパでは 1,600 トンとか、中国だと 6,000 トンという施設を造っている。日本でも広域化計画を作って、出来れば 300 トン以上、少なくとも 100 トン以上の施設にして公害対策、エネルギー利用をやっていこうという方向で動いている。地球温暖化対策とも密接に関連している。

3 番目の輸送については、集約すれば運ばなければならない。これで悩んでいる所が沢山ある。例えば、私が関わっている紀州では、全部集めてもそんなに大規模にならない。それでも集約化し、全体の汚染物質の排出を抑えて、少しでもエネルギー利用をしようという方向であり、集約すれば輸送距離が伸びるとするのは宿命。ただ、県央ブロックでは、輸送効率を良くしようと、中継施設を造るという対応を考えている。

将来人口については、ルールがある。ごみの排出量を予測して、小さく造ってしまい、ごみが処理しきれなくなると困るので、それは竣工時の人口ということで建設するのが一般的であり、そうせざるを得ないということである。

ごみを出す責任感については、40 年位前「東京ごみ戦争」というものがあつた。ごみを処理せずに埋立地に持っていく、埋立地に一万台を超える清掃車が集中するという状況で、地元の方は怒

	<p>り、もっと対応を考えろという契機になった。広域化した時にある1点に集中するという点で、この指摘は非常に重要だ。</p> <p>排出は、みんなそれぞれ排出するので、処理についても、負担の公平化を考えなければならない。そこで一つには、環境にやさしい施設を造る、もう一つは国の施設整備計画にも入ったが、施設を造ることで、地域が発展することも併せて考えるべきだということになった。あともう一つは、施設を公開して、こう処理しているということ、みんなが学ぶ、環境教育についても非常に力を入れるようになってきた。これが完全な解決かどうかということは議論があると思う。過去の事例で学んだ結果が、そのような形で取り組まれているという状況だ。</p>
②B	<p>16 先ほど（日環）センターが言ったことをすべて網羅した上で、今回の計画が進んでいるという理解でいいのか。</p>
→菅原事務局長	<p>16 広域化の目的や趣旨などを聞いても、心配や不安になるというのはそのとおりで、様々な場面で意見が出されている。本当に危険なものであれば、お願いすることはないという前提でお話している。不安については、今少しずつお話しており、まだ答えきれていない部分もあるが、一つ一つ真摯に答えていきたい。</p>
B	<p>17 岩手県内のある地区の民間施設で、自主基準をクリアしなかった時に、実は問題なかったということだが、報道でいろいろ問題になった事案があった。自主基準をクリアしなかった時に、一時的に施設を停止してしまうのか、それをどれ位のバッファで止めることになるのか。</p> <p>18 排出基準のばい煙濃度、窒素酸化物についての話があったが、焼却灰は完全燃焼されて灰が出ないのか、灰が出た場合の基準をどうクリアするのか、それをどう外に持っていくのか、その安全対策を教えてほしい。</p> <p>19 場内の水はクローズドシステムだが、雨水の放流はどのような対策を講じるのか。施設の稼働が一時的にストップした場合に、ごみが一時的に停滞する形になるかと思うが、留めていた場合に臭いが発生すると思うし、それらの対策はどうなるのか。実際造った場合にどうなるのかということをお聞きしたい。</p>
→菅原事務局長	<p>17 参考にしようと思っているのは盛岡市クリーンセンターの運営</p>

	<p>である。国の二つの基準の他に自主基準値を決める部分で地域の方も入った組織があるが、そこで専門的な組織もあり、大学の先生が入ったり、一体的にある。協定書の中に、御質問のような場合にどうするかという部分もあり、話し合いをしながらとなっている。クリーンセンターでも、現在約 3,000 日自主基準値を守れているが、逆を言えば 8 年ほど前に守れない時もあったし、稼働当初は燃焼が安定しなかったことがあったようだ。もちろん法律を守れないといけないし、クリーンセンターを参考にと言ったが、他の例も見ながら、地域の方と協定値を含め施設をどのように運営していくかというところを、協議会で一緒にやっていきたい。</p>
B	<p>17 それでは協議会なり、話し合いの時に運用の中で、基準値と、もし越えた場合にどう運用するのかというのを協議していくという理解でよろしいか。</p>
→菅原事務局長	<p>17 そのように考えている。</p>
B	<p>18 ダイオキシンや窒素酸化物などだけではなく、当然焼却灰もある。完全燃焼しない部分もあるし、800 度を 2 秒以上クリアするといっても、温度センサーを付ける位置によって違うし、勢いよく燃える部分と、燃えない部分がある。すると、灰が残った場合に、それをどう処理するのか。あとは、当然煙突の中にもすすは残るはずなので、そういうのは定期的に処理するのか。</p>
→菅原事務局長	<p>18 クリーンセンターはストーカ炉といって、最初に火をつけるときは灯油を使うが、あとは自分の熱で燃えるような仕組みであり、当然、物を燃やすので灰が残る。その灰は、市内にリサイクルセンターという埋立地があり、そちらに運んでいる。また下に残る灰ではなく、上がる灰の中にも有害物質的なものがあり、それを取り除くことが出来るバグフィルターという装置を経たうえで、資料の図にもあるように処理をしている。フィルターについても、クリーンセンターでは 3 年に 1 回交換するとか、メンテナンス期間が決まっており、その中で 3,000 日、自主基準値を守れている。</p>
B	<p>19 構内の雨水はどうなるのか。</p>
→森田主幹	<p>19 雨水は、造成すると一気に集まってくるので、施設整備計画の中で水量算定なども行いながら、雨水渠の整備なども必要になるのではと考えている。きちんと放流できるシステムを作らなければ</p>

	<p>ばならないので、繰り返しになるが施設整備計画の中で明らかにしていこうと考えている。</p>
B	<p>20 2つの候補地を1に選定するのではなく、4つの候補地を1に選定するのか。</p> <p>21 選定する時に、熱効率やいろんなことを計画出来るということも、選定する基準の中にあるのか。ごみ焼却炉を造ることによって、熱エネルギーがいろいろ利用が出来て、それをどのように利用するかも含めた上での選定なのか。</p>
→菅原事務局長	<p>20 私たちは盛岡市環境部だが、広域8市町で構成する協議会事務局として参っており、協議会の進め方は、各市町の首長が会議で重要なことを決めるというものである。8月の報道などにおいて、2か所を実質的にという表現で御覧になったかと思うが、8市町の首長に2か所で進めることについて了解いただいた上で取り組んでいるものの、会議の決定を経っていないので正式には4か所である。なお、今の状態から4か所に戻るかという点、非常に難しい状況であり、私たちとしては2か所の状態から進めていこうというのが今の状態である。</p> <p>21 資料31ページ、3行目から4行目の「1か所の選定に当たっては」という部分になる。いろいろな意見の中には、数値化して決めるということも確かにあるが、例えば岩手県の産廃施設や他の市町村での決め方について参考にさせていただいたが、最終的には質問のとおり、様々な可能性や意見など数値化できないということで「総合評価」という手法をとっていると聞いており、適切かと思う。そして1か所の選定に当たっては「地域住民や関係者の御意見」、「整備の確実性」や「整備運営上の諸条件」を総合的に判断していく中では、エネルギーの様々な使い方、当該の地域の方にとって、より良く使えるという部分があるならば、それは総合評価の中で見ていくべきという考え方である。</p>
B	<p>22 懇談会については、今後も話し合いがあるものという理解でよろしいか。</p>
→菅原事務局長	<p>22 そのとおりである。</p>
③C	<p>23 (説明資料) 5ページの想定処理量だが、クリーンセンターが405トンで、想定では450トンになっているが、これは8市町合わ</p>

	<p>せた数字か。11年後の稼働ではこの位少なくなる想定か。</p>
→森田主幹	<p>23 この500トンとは、50トン部分は災害廃棄物の分を見込んでおり、表の上から3行目に想定処理量456トンと表示しているが、これが平成41年時点で広域8市町から可燃ごみとして排出される量、つまり処理が必要になる量と見込んでいる。</p> <p>参考までに、今8市町で6つのごみ焼却施設があるが、そちらの処理能力を全て足すと、全部で753トンという数字になる。これを500トンに集約しようという計画になっている。</p>
C	<p>24 そういう風に減るのか。700トンあるものが500トンに。人が減るから（ごみも）減るのか。</p>
→森田主幹	<p>24 人口減少もないわけではない。6施設とも、ある程度余力を持たせながら施設を管理している。例えば、クリーンセンターは、この表の中に405トン/日と書いている。クリーンセンターには、135トンの炉が3つある。そのうち、通常は2炉使用している。1炉については地域との覚書の中で通常2炉運転ということにしており、したがって、1日当たり270トンくらいの処理能力で、運転管理を行っている状況である。</p>
C	<p>25 ごみの量は盛岡市ではどの位出ているのか。</p>
→菅原事務局長	<p>25 盛岡市では今、大体1日220トン位である。クリーンセンターが出来たのは平成10年だが、3炉あるうち1炉は休ませるということで、最大約270トンを当時はみていたが、皆様にもごみ減量を取り組んでもらっている中で全体量が減っている。全国的にも平成12年以降は少しずつ減ってきており、仰るとおり人口減も見込んだ上で考えていかなければならない。</p>
C	<p>26 広域化をしていった場合、盛岡市に（ごみ処理を）頼むとなると、いくらごみを出してもいいというような話も聞いたことがあるが、その想定はないのか。</p>
→菅原事務局長	<p>26 仰るような指摘はどこに行ってもいただく。ただ、ごみは出すだけではなく、出す時の分別や、例えばごみになる商品は買わないという発生抑制も含めて、ソフト的な施策を継続してやってもらっている。今の議論は建物のハードの部分で、焼く、埋める、運搬するなどの部分だが、私たちとしてはハードもソフトも一緒だと思っている。単純に燃やす、集めるということではなく、各</p>

	<p>市町，盛岡市でも取り組んでいる。例えば，イベントを一緒にやり，ゆるキャラに来てもらい広報活動を一緒にやろうとか，この間は滝沢市のイベントに私たちも行ったし，逆に参考にしてもらっている面もある。盛岡市がやっている施策をやりたいと言ってもらうこともあり，そういうことを一緒にやること，逆に他の良いところを取り入れるということもあると思っている。単純に出せばいいということではないという基本線でやっているし，それを各市町に，逆に言えば広げられつつある状況かと考えており，ただ単に頼むだけということには私たちは全くしたくない。</p>
C	<p>27 8市町合わせれば730トンという数字だが，それが11年経ち稼働の時は450トン，どこからそういう算定になるかは分からないが，本当に広域のごみ焼却場は必要なのか。各市町でごみのことを考えた方がいいのではないか。発電などそれは素晴らしいばら色のような話だが，それだけではないかと思う。私は今までずっと農業をやってきており，半径2キロ地点に土地がある。それを汚染されるのがやはり怖い。先ほどの質問でもあったが，総量の問題。実際にはクリーンセンターで15年近くの稼働で1,000トンの有害物質が出ている，岩手大学の佐藤先生の話聞けば，1,600トンも出ているということ聞けば，本当に信じていいか。確かに今は快適なごみ焼却炉になり，熱回収施設も良くなってということだが，私たちは井戸水を飲んでいる。空気を汚される健康被害も怖い，化学物質が降ることですべて汚染され，30年経てば環境負荷の問題で別な場所に行く，それでもあなた方はしょうがないと思うかもしれないが，なんかしっくりこない。8市町分を集めて一生懸命やらなくてもいいように思う。</p>
→菅原事務局長	<p>27 今の質問なども含め様々な場所で不安の声をいただくことはある。あくまで，計算して，何年間で煙突から出た量としては，ということであり，それは，何百メートルの所に全部落ちるということではないというのは佐藤先生も仰っているかと思う。ガスで出るものと，固体として落ちてくるものとは違う。そういうことも含めて，さらに説明していかなければならないと思う。</p> <p>また，量の話があったので補足すると，6つの炉は750トンほどの能力である。建てた時に最大必要な量で造っており，人口や</p>

	<p>ごみの量が減っているのですが、どこの施設でも今は余力がかなりある状態である。ごみの量が 750 トンあるのではなく、その辺から計算すると、新たに造る際の規模は 456 トンでスタートできるのではないかと考えている。</p>
④D	<p>28 指からばい菌が入ると、五臓六腑に渡るということから分かるように、様々に波及することをまず市職員は頭に入れて欲しい。そして市職員は「ヤッホー」というこだまの往復がない感じがする。実は平成 4 年当時の盛岡市長と都南村長の約束として、合併した場合には、これを頼むという要望をしている。今の市長の耳にも入っているはずだし、今年の春先に市にお願いに行った。それは道路整備である。関係ないと言われればそれまでだが、そのために五臓六腑のことを言った。田の沢に行く道路の舗装がされていない。平成 4 年から 20 何年も経つが、こだまがない。我々はあそこの道路を歩いていて非常に困っている。滝村町内会も利用している。人事異動で変わった人たちは、「そういったことは耳に入っていない」とか、「予算がない」とか言い、一向に進んでない。こういう立派な施設を造るために地域の賛同がなければ進まない。だから五臓六腑ということを使った。分かりますか部長。</p>
→菅原事務局長	<p>28 市に、合併のタイミングで話をかけたけれども、返答というか、成果がない。今はごみ焼却施設がテーマだが、市としてどうなのかという御意見と思う。</p>
D	<p>29 五臓六腑とはそういうことだ。いろんな方たちが今まで要望してきており、私も直接聞いている。一方的に声はかかるが往復がない。そうになると、こういったものを造ろうとしても雲散霧消する。その辺のところを分かってもらいたい。今日はその話を、市の方からどのように答えるのかと思い、馳せ参じてきた。</p>
→菅原事務局長	<p>29 要望の部分は市道かと思うが、どの位置の道路かは申し訳ないが詳細には把握してない。ただ、今回の話かけをする際、それぞれの地域で課題、テーマがあるだろうとは思っていた。例えば今日の堀越、田の沢、沢目町内会に限ったとしても、その 3 か所で今までどういう課題があり、やり取りをして、どう進んでいるかということを、説明会を開催し意見を聞きながら、どこまで話し合いが出来るか、解決できるのかを、いろいろ話し合えればとい</p>

	<p>う思いで入っている。「こだま」や、体の例を出してもらったが、一つ一つ市の中でつなぎながら、お答えできるならどこまでかという程度も含めて、少しずつでもやり取りするというのが、市と地域の方との関係かと思う。そういう関係性を保ちながら、内容も確認しながら、やっていくことではないのかと感じている。</p>
D	<p><b>30</b> こういう環境整備やアクセスの問題は必ず出てくるというお話が出たので、これは大変だと住民は心配する。ただ、この施設がよそに行ったとしても、私が話したことについての願いは続くと思う。その辺は、市の幹部職員として、よく理解いただきたい。滝村町内会について、私が話したことについては関連性があるので、今後、説明会云々の場合は、そういう対象にしてもいいのではないかと思う。</p>
A	<p><b>31</b> 私が最後の質問ということだが、時間がまだまだ足りない。質問がまだまだあり、2キロ圏内に農地を持つ者として本当に困っていて、納得する答えをもらわないと、とても協力出来ない。一意見なので潰されてそのままここに来てしまえばそこまでだが、まず、言うておくが、田の沢の農業者として私は反対だ。</p> <p><b>32</b> 近くに建設が始まった時点で、風評被害で、私の一定数のお客様は必ず失われる。今まで事故がなかったとされていても、実は垂れ流しになっていたという事実はいくらでもあるわけで、リスクを避けたいというお客様は、私からは買わなくなるということは絶対にある。一定数、私のお客様がいなくなるということを呑んででも、地域のためにやらなければならないと納得したいと思っているからだ。質問を受けるメールアドレスとか教えてほしい。</p> <p>まず一つ、1日100トン以上でないとボイラーがつかないと言って、クリーンセンターは130トンが2基と言って、300トン以上じゃないと高効率でないというのであれば、100トン以上を3つも4つも建てたら嘘をつかれたと後で言う。「300トン以上じゃないと高効率なものにならないと言いましたよね。」と言うので。クリーンセンターで130トンが3基動いている。それなら130トンを分散させればよかったという話になるので、この矛盾点も聞きたかったが、後で聞く。</p> <p>田の沢町内会で話題になった話だが、バス通りを確保して欲し</p>

	<p>い。ここは買い物難民になるのかということに対して非常に危惧がある。もし、この施設が来てバス通りが確保され、私たちが車を運転出来ない高齢者になっても、買い物難民にならなくて済むのではということに対して非常に興味、関心があり、そのことについてもっと議論したかった。</p> <p>また、ゆぴあすみみたいな施設もいいが、熱供給を直接受けられるのであれば、光熱費もすごく浮くのではないかと。そういう先進的なものにチャレンジしていくのであれば面白いという話も出てきたので、その点も議論したかった。</p>
→菅原事務局長	<p>32 アドレスは資料の一番後ろに記載してあるのでお願いしたい。</p>
B	<p>33 良い施設を造らないといけないと思うし、どこかで造らなければならない。それに声を出して言えるとなると、選定された場所がこういう会合をもっていろいろ話をしなければならないと理解した。賛成反対というよりも、良いものを造るためにはもっと話し合いをしなければいけないと感じたので、今後機会があればよろしくお願いしたい。</p>
→森田主幹	<p>31・33 反対という話をいただいた中で、様々な御提言をいただき、本当にありがたい。例えばバス通りの話もあったし、熱供給をと積極的にという意見もいただいた。ここまでしか出来ないのではと止めるのではなく、様々なことにチャレンジしていく気持ちを持ちながら、施設整備を進めていければと思っている。また、余熱利用ということだけではなくて、地域振興やまちづくりはこれを機にとという部分もあると思うし、現にクリーンセンターについても、ゆぴあすの話がクローズアップされているが、それ以外にも道路の整備やバスルートの関係でも、公共交通機関との連携で色々やった部分もある。そこは地域の皆様と様々意見交換をしていく中から、こういったまちづくり、地域振興という部分についていろいろ描いていかなければと思っているの。私どもとしては、引き続きこういう話し合いを重ねていく中で、地域振興などについても話し合いをもたせていただければと考えている。</p>
C	<p>34 反対署名を、地区の方にもいるので、もらいにいくので一つよろしくお願いしたい。</p>

(5) 閉会

以上